

き た ま ち



わたしたちは“北海道の暮らしたいまち、オンリーワンづくり”を目指します



一般社団法人 北海道まちづくり協議会 2012年度 活動報告書

目 次

一般社団法人 北海道まちづくり協議会 2012年度(2012.4.1～2013.3.31)活動報告書

■ ごあいさつ | 02

■ 主な年間活動 | 03

■ まちづくり支援事業(研究会活動) | 06

- | 街の中心地区活性化研究会
- | 防災・減災研究会
- | マンション建替え支援研究会
- | まちづくり戦略研究会

■ まちづくりゼミナール | 10

- | 第1回 講座 「土地区画整理事業とまちづくり」
- | 第2回 講座 「シンガポールベイエリアの再開発事情について」
- | 第3回 講座 「人口と土地価格の関係 in 北海道」

■ 会員情報交流会 | 13

- | 第1回 情報交流会 「富良野に見るこれからのまちづくり」
- | 第2回 情報交流会 「再開発事業から見た建築の設計」
- | 第3回 情報交流会 「中心市街地活性化のまちづくり」
- | 第4回 情報交流会 「マンション建替え初動期の取組みについて」

■ 組織・役員 | 16

■ 会員名簿 | 17

●ご覧になりたい項目をクリックするとページに移動します

ごあいさつ



一般社団法人 北海道まちづくり協議会
会長 大石 章夫

わたしたちは“北海道の暮らしたいまちーオンリーワンづくり”を目指します。

わたしたちは、「北海道の暮らしたいまち、オンリーワンづくり」を掲げ、現地実践活動を通じて、地域ニーズを把握し地域の方々と密接な関係を構築して、地域活動の連携・協働に微力ながら貢献してまいりたいと考え活動しております。

2012年度(平成24年度)は、協議会活動の2年目となり関係される皆さまには少しずつご理解が広がってきており、現地の実践活動もスタートすることが出来ました。

また、平成23年3月に解散しました社団法人北海道まちづくり促進協会を承継する団体としてその翌月発足しましたこの協議会は、約1年9か月の任意活動の実績をもって平成24年12月21日、一般社団法人(非営利型)として社会に責任を有する団体となることが出来ました。これも関係される皆さまのご支援によるものと深く感謝を申し上げます。

この報告書は、この協議会が任意団体から法人団体となった2012年度1年間の活動をまとめたものです。ご一読いただき、協議会活動に一層のご理解とご協力を賜ることができれば幸いと存じます。

地域に根ざしたまちづくりに求められる「4つの分野」



地域に根ざしたまちづくりを進めるため、ビジョンを共有し行動力を伴う協力関係をまちのなかに構築することです。行政、住民、商業者や関係団体等が組織化し、優れた人材の活用と育成、活動の定着化、資金調達の安定化を図ります。



まちなみ景観、建築ファサードや屋外広告物、道路附帯設備等、まちのイメージに配慮し整えることです。まちのイメージを共有し段階的に実現するため、デザイン計画を作成してまちを更新します。

組織化
プロモーション

デザイン
経済再生



地区ならではの特徴を、来街者や商業者に加えて起業家や投資家等にもアピールすることです。販促活動やイベント、情報発信等、多様なプログラムとツールを通して、地域らしさを戦略的に活かします。



経済基盤を再活性するため、地域産業や地域らしさを活かす取組み等と連携しながら、経済活動を多様化し強化することです。既存ビジネスの拡張や新規ビジネスの導入、その効果検証を通して、戦略的に再活性化を図ります。

主な年間活動

組織運営

2012年

5月28日	北海道まちづくり協議会 平成24年度 第1回 通常総会 会場：かでの2.7・920会議室 出席者数：33名(うち委任状出席：9名) 総会終了後、協議会の法人化等を議題に意見交換会を開催
11月6日	北海道まちづくり協議会 平成24年度 第2回 臨時総会 会場：かでの2.7・730研修室 出席者数：47名(うち委任状出席：17名) 議案：一般社団法人北海道まちづくり協議会設立に関する件
12月21日	一般社団法人北海道まちづくり協議会 設立登記

2013年

1月9日	平成24年度 第1回 理事会 会場：緑苑ビル・201号室
1月17日	一般社団法人北海道まちづくり協議会 平成24年度 第1回 設立総会 会場：中村屋旅館 出席者数：34名(うち委任状出席：7名)
3月28日	平成24年度 第2回 理事会 会場：緑苑ビル・201号室

まちづくり支援事業

街の中心地区活性化研究会	研究会ミーティング：5回 恵み野商店街との意見交換会：4回 恵み野商店街・まち歩き、商店会との意見交換
防災・減災研究会	勉強会：2回、視察会・報告会：各1回
マンション建替え支援研究会	勉強会：4回
まちづくり戦略研究会	ミーティング：4回
子どもたちと自分のまちを 考える活動	ミーティング：1回 ※8月・まちコミュニティ研究会へ名称変更、2013年〇月・解散

交流研修事業

まちづくりゼミナール	3回開催 参加総数：63名
会員情報交流会	4回開催 参加総数：63名
新年交礼会	2013年1月17日 会場：中村屋旅館
まちづくり出前フォーラム	2012年11月11日 於：名寄市

附帯事業

環境への取り組み	札幌市の「さぼーとほっと基金」に対し、用途を“環境保全活動への活用”と指定し、当協議会の年間事業費の約1%を寄付
----------	--

受託事業

北3東11周辺地区 再開発準備組合	当該地区市街地再開発事業における一般業務代行者選定審査会 事務局設置業務
手稲本町1・3地区 市街地再開発準備会	当該地区市街地再開発事業における共同施行者公募事務局業務
恵庭市	恵み野商店街活性化事業(街の中心地区活性化研究会・担当)
札幌市議会公明党議員会	コンパクトシティ実現に向けた郊外性住宅団地のあり方に関する調査研究業務(まちづくり戦略研究会・担当)

主な年間活動より

稚内駅周辺整備完成および自然エネルギー施設見学会

稚内市では、中央地区の再生を目指し10年余り前から稚内駅を中心とした一帯の再整備を進めてきましたが、本年これらの整備が完了し2012年4月29日に「キタカラ＝KITAcolor」という名称でグランドオープンしました。



本事業には当協議会のメンバーも旧北まち協会時代から携わってきたことから、2012年6月1日、再開発コーディネーター協会の会員の方々と当北まち協議会が合同で視察会を実施し、東京から7名、札幌から10名、計17名の方々にご参加いただきました。視察は、稚内市役所がマイクロバスをご用意くださり、稚内駅前地区市街地再開発組合事務局長(当時)中村清司氏にご案内いただきました。

稚内駅前地区第1種市街地再開発事業として完成した「キタカラ」は5階建。駅と複合商業交流施設に加え、グループホーム特定施設と高齢者向け住宅が組み合わされ、全国的にも先進的な事例と注目を集めているとの説明がありました。



その後バスで移動し、稚内市が積極的に取り組んでいる自然エネルギー施設の風力発電「宗谷岬ウィンドファーム」、太陽光発電「稚内メガソーラー発電所」を見学しました。この日は、快晴&風という天候で、まぶしい陽射と時々強く吹く宗谷岬の風、まさに自然のエネルギーを肌で感じる視察でした。



夜は参加者の交流会、稚内市内のパブで大いに盛り上がり交流を深めました。翌日は自由行動、利尻・礼文の島巡りに出発されたメンバーから、「高山植物も景色も食べ物もすべて満喫&満足」と一報がありました。



主な年間活動より

一般社団法人北海道まちづくり協議会 平成24年度第1回 設立総会

2013（平成25）年1月17日、当協議会の法人化により、一般社団法人北海道まちづくり協議会設立総会を、中村屋旅館にて開催しました。正会員数53名の内、出席者は34名（うち委任状出席者7名）で、定款第18条の規定による過半数以上の成立要件を満たしました。本総会では、先ず、任意団体 北海道まちづくり協議会の承認事項・平成24年度事業報告及び決算報告（解散時まで）に関する件が議案とされ、原案通り承認されました。続いて報告事項（会長、副会長常務理事、顧問及び相談役に関する件、平成24年度事業計画及び収支計画に関する件、諸規定等に関する件、専門部会の部会長に関する件）、入会金・年会費規定の承認に関する件、定款27条第1項ただし書きに定める上限金額に関する件、理事が所属する正会員への業務委託に関する件の4件が議案とされ、いずれも原案通り承認されました。

総会終了後は会場を別室に移し、34名の方の参加を得て設立記念祝賀会が開催され、大石章夫会長にご挨拶をいただいた後、佐藤薫理事の発声で乾杯を行い祝宴がスタートいたしました。会では参加者が和気あいあいと語らい、最後は森哲子副会長の音頭で、当協議会の今後の活発な活動を祈念して絞めを行い閉会いたしました。



まちづくり支援事業（実践活動研究）

街の中心地区活性化研究会

活動内容	中心市街地に存在する街の中心地区に着目し、その地区の成り立ちや現状をヒヤリングと地元意見交換を通して理解し、活性化成功の秘訣や課題解決の糸口を探る現場と密着した活動を行っている。このほか、国内外の街づくり事例を研究するなど、街の中心地区活性化推進のための情報収集も行っている。また、この活動の一環と捉え、これらのプロセスや成果を広く情報発信する。
代 表	大石 章夫（有限会社大石R計画）
メンバー (2013年3月末)	一戸勝巳、稲垣孝裕、内山靖久、大石章夫、大場眞一、岡本浩一、片岡道宣、加納隆一、坂本行宏、佐藤市郎、杉本潔、住友見千子、高橋明男、武井秀爾、辻井順、能戸裕之、藤山三冬、森哲子、山口重則

活動状況

	月 日	場 所	主な内容
1	7月25日	緑苑ビル201号室	活動のオリエンテーリング
2	9月6日	緑苑ビル201号室	研究会ミーティング
3	9月13日	恵庭市・恵み野商店街	恵み野商店街・まち歩き
4	11月8日	緑苑ビル201号室	研究会ミーティング
5	11月16日	恵庭リサーチビジネスパーク	恵み野商店会とのミーティング
6	12月13日	恵庭リサーチビジネスパーク	恵み野商店会第1回 意見交換会
7	1月15日	恵庭リサーチビジネスパーク	恵み野商店会第2回 意見交換会
8	2月14日	緑苑ビル201号室	研究会ミーティング
9	2月19日	恵庭リサーチビジネスパーク	恵み野商店会第3回 意見交換会
10	3月12日	緑苑ビル201号室	研究会ミーティング
11	3月19日	恵庭リサーチビジネスパーク	恵み野商店会第4回 意見交換会

活動について

- ・2012年度（平成24年度）の活動は、予てより話のあった恵み野商店街活性化に関する現地での取り組みが中心となった。
- ・10月頃から現地商店会と具体的な話合いを始め12月には恵庭市から業務委託を受け活動を進めた。
- ・研究会メンバーによる街歩き調査や商店街関係者との意見交換、そのための事前研究会を行い、商店街が抱える悩みや隘路を抽出し課題の共有化を図った。
- ・これらについては、業務成果として恵庭市に納めるとともに、協議会HPにも掲載している。
- ・このことにより、商店街関係者との信頼関係の構築も大きく進んだと感じている。
- ・2013年度（平成25年度）は、課題に対する具体的な取り組みの方向性について、活動を進める予定である。



研究会開催風景



現地意見交換会開催風景

まちづくり支援事業（実践活動研究）

防災・減災研究会

活動内容	北海道における防災施設、都市基盤、産業基盤、コミュニティ等について課題を整理するとともに、未来のまちづくりについての研究、提案、提言を行う。 また、活動を通じて、新たなまちづくりに関わる各種専門分野、産学官のネットワークづくりを行う。
代表	高森 篤志（株式会社ソフトスケープ）
メンバー	高森篤志、中山祐二、内山靖久、五十嵐 憲一、佐藤潤、香川誠、久新信一郎、武井秀爾、押野和也 前道美有、高橋美香

活動状況

	月 日	場 所	主な内容
1	6月15日	緑苑ビル201号室	勉強会
2	6月25日	登別市役所	登別市との協議
3	8月4日	登別市・幌別地区	現地視察会
4	9月3日	緑苑ビル201号室	視察会発表会
5	12月6日	緑苑ビル201号室	勉強会

活動について

防災・減災研究会では、「将来的な津波災害にどのように備えるか」をテーマに、登別市幌別地区をフィールドとして現地視察を行いました。また、視察結果をもとに研究会メンバーによるレポートの作成と意見交換を行いました。

現地視察では、海岸から非難場所となる高台まで実際にまちを歩き、「想定される津波がどのように街を襲うのか」、「避難経路にはどのような障害があるのか」、「お年寄りなど災害弱者が避難する場合どのような問題点があるのか」などの観点から各自レポートをまとめました。北海道の将来的な津波災害については、事前復興的なハード対策は見通しが付きにくく、地域コミュニティによる互助の取組みが重要であるとの方向性を得ました。今後は「災害に備えるコミュニティ」をテーマとした研究を中心として活動を続けて生きたいと考えています。



現地視察の状況



視察後の検討会の状況

まちづくり支援事業（実践活動研究）

マンション建替え支援研究会

活動内容	近い将来、大きな社会問題になると予想されている「マンション建替え」について、（一社）再開発コーディネーター協会のマンション建替え専門グループと一緒に、技術向上のための事例研究や情報収集を行い、マンション建替えの推進普及に努めるとともに、支援を希望する管理組合に建替えプログラムの現地指導やマンション建替え実施のコンサルティング参加も視野に入れた活動をする。
代 表	深澤照一（株式会社プランニングアーク）、平成25年4月交代新代表：武井秀爾（個人正会員）
メンバー (2013年3月末)	大石章夫、内山靖久、岡本浩一、押野和也、葛西政一、菅野克、北川好和、久新信一郎、後藤健夫、佐藤市郎、佐藤薫、杉本潔、武井秀爾、八田真勝、濱谷雅弘、深澤照一、本間寿幸、横山幹人

活動状況

	月 日	場 所	主な内容
1	7月10日	緑苑ビル201号室	研究会ミーティング
2	9月11日	緑苑ビル201号室	研究会ミーティング
3	11月27日	緑苑ビル201号室	研究会ミーティング
4	2月27日	緑苑ビル201号室	研究会ミーティング

活動について

- ・研究会は、4回開催した。初回は、事例発表を中心に意見交換を行った。2回目以降は、現地実践資料として、マンション建替えの紹介説明資料の作成を行い、平成25年3月開催の会員情報交流会で資料案の説明を行い、会員から広く意見を聴取した。年度内の最終版作成には至らなかった。
- ・マンション建替えの現場ということで、2、3の管理組合に声掛けを行ったが、実現はしなかった。
- ・マンション建替えについては、札幌では未だ事例が少なく、大規模修繕等の維持管理が大勢を占めているので、普及には厳しい環境にあり、メンバーの士気低下を防ぐのが緊急の課題と言える。



意見交換風景



スライドを使用した勉強会風景

まちづくり支援事業（実践活動研究）

まちづくり戦略研究会

活動内容	本格的な人口減少、少子高齢化の時代におけるまちづくりについて「コンパクト化」「活性化」「事業化」をキーワードに戦略的に調査・研究する。
代 表	丸田 剛久（個人正会員）
メンバー	内山 靖久、生沼 貴史、大石 章夫、大場 眞一、岡本 浩一、菅野 克、久新 信一郎 後藤 健夫、佐々 巧、辻井 順、中村 清司、丸田 剛久、森 哲子 (13名)

活動状況

	月 日	場 所	主な内容
1	11月22日	緑苑ビル201号室	第1回 研究会ミーティング
2	1月25日	緑苑ビル201号室	研究会ミーティング
3	2月21日	緑苑ビル201号室	研究会ミーティング
4	3月8日	緑苑ビル201号室	研究会ミーティング

平成24年度の活動について

研究会の受託である「コンパクトシティ実現に向けた郊外住宅団地のあり方に関する調査研究」のまとめを通じて、コンパクトシティを目指した具体的施策について4回にわたるミーティングを通じて検討した。

その中で、「地域コミュニティの再生」「形態的コンパクト化」「機能的コンパクト化」「世代交流しながら住む都市的な住環境の創出」「質の高い拠点整備の充実と地域を支える交通の充実」という5つの目指すべき方向を示し、さらにそのために検討しなければならない5つの課題を提起した。



研究会ミーティングでの意見交換

まちづくりゼミナール

平成24年度 第1回 講座 | 2012年5月23日

「土地区画整理事業とまちづくり」

講師 | 中山 祐二氏 | 株式会社シン技術コンサル 都市施設部 次長



5月23日、平成24年度では第1回目、通算で9回目となる「まちづくりゼミナール」が開催され、24名の方が参加されました。

講師に当協会の運営幹事でもある

(株)シン技術コンサルの中山祐二氏をお迎えし、「土地区画整理事業とまちづくり」と題して、道内4つの土地区画整理事業の紹介を中心とした内容と、市街地整備手法の一つとして柔軟に区画整理手法を活用した全国的先進事例の紹介との構成でお話をいただきました。

道内事例では、中山氏が自ら関わった事業の紹介として、各事業の特性、事業概要、区画整理手法の導入目的、その後の整備経過などを分かりやすく解説されたほか、区画整理事業の流れや、補助メニューと関連法令との関わりなどテクニカルな部分の具体的な解説もありました。また事業化に向けて生じた課題やその解決策についても担当当事者でなければ経験できない貴重なお話をいただきました。

全国的な事例紹介では、市街地整備や街路整備を行なう上で区画整理手法を選択した目的や事情、地域



特性などの解説があり、それらの事業に土地区画整理手法が上手く機能している事や、これからの市街地や街路の整備を進める上での土地区画整理手法活用の可能性などについて紹介されました。

区画整理事業に長く携わっている中山氏の具体的、実務的な今回のお話しは、市街地整備、街路整備などのまちづくりの整備手法として、区画整理手法が柔軟かつ多様に活用できる有効な手法の一つであると再認識する機会でした。また区画整理事業は施行期間が長期にわたるため、その整備環境に変化が生じることから、施行者、地域住民、地域行政が一体となって進める“協働”の精神が生かされなければならないとも感じました。

質疑応答タイムでは、参加者から内容についての質問などがあり、区画整理手法の可能性やさまざまな整備手法との連携、融合などについての意見交換がなされ、大変有意義なゼミとなりました。



【レポート】内山 靖久氏(岩田地崎建設株式会社)

まちづくりゼミナール

平成24年度 第2回 講座 | 2012年7月25日

「シンガポールベイエリアの再開発事情について」～国策でIR(カジノ)を導入した背景と現状の視察報告～

講師 | 濱谷 雅弘氏 | 北海道工業大学 未来デザイン学部 教授



7月25日、平成24年度では2回目となるまちづくりゼミナールが参加者20数名で開催されました。講師には、当協議会顧問の北海道工業大学 濱谷教授を迎え、「シンガポールベイエリアの再開発事情について」と題して写真や動画を交えて解説いただきました。シンガポールの独裁国家としての成り立ちから水資源の不足問題、車の価格を異常に高くし台数抑制していること、そのために逆にタクシー代の安いことに驚かれたことなど、ユーモアを交えながらの楽しいお話で始まりました。

マリナベイ・サンズは、カジノを中心施設に導入し、ホテル、コンベンションセンター、ショッピングモール、ミュージアム、シアター等を配置し、総工事費5千億円もの大規模複合リゾートとして完成しました。

シンガポールにおいてカジノ導入の流れを考えると、背景にはアメリカ型カジノがマカオなど、世界中に拡大したことがあり、観光産業の低迷、都市再生の必要性から、複合リゾートという新しい概念を取り入れた結果と考えられます。

メイン施設のホテル3棟は、地上57階、高さ191m、最大52度の傾きを持つ非常に大きく奇抜なデザインで、韓国のゼネコンが受注しました。この3棟を結ぶ屋上テラス「サンズ・スカイパーク」は長さ340m、北側に張り出

している展望台は片持ち梁として世界最長の65mであり、この施工については日本のJFEが橋梁の技術を活かして行ったとのことで、日本の建築技術の高さを証明するかのようでした。

スカイパークの中央部分は、宿泊客のみが利用できるプールで「インフィニティプール」と呼ばれ、水面が永遠に続くような視覚的効果が施されています。このホテル



に泊まり、このプールで泳ぎ、真下の道路を走る夜のF1レースを観戦してみたいなあ…と思ったのはきっと私だけではないでしょう。

次に、学生たちとの活動フォトレポートも楽しませていただきました。手稲区の手づくり提灯「夏あかり」には16小学校が参加し、学生も100名ほど参加するといふ「街づくりは人づくり」を实践され、滝川の紙袋ランタンフェスはNPO主体から市民主体へと変化し、達成感や感動が得られ、江差町の祭りでは、参画することで学生の眼の輝きが変わっていった話など、「ありがとう」「また来いよ」という『もてなしの心でまちづくり』という言葉も印象的であり、それぞれが素晴らしいまちづくりに繋がっていることを確信しました。

今回のゼミは、実務者目線のレポートと教育現場での実践活動の様子を組み合わせたものであり、大事な建築部分の施工や海水の淡水化技術等、日本の技術の高さや貢献度を再認識しましたし、まちづくり実践活動では、今後を担う若い世代の行動力、創造力及び協調性等を養成している見ごたえのあるものでした。

【レポート】加納 隆一氏(フクタカ工業株式会社)



まちづくりゼミナール

平成24年度 第3回 講座 | 2012年10月25日

「人口と土地価格の関係 in 北海道」

講 師 | 平澤 隆徳氏 幸田 仁氏 | 一般財団法人日本不動産研究所 北海道支社



10月25日、日本不動産研究所の不動産鑑定士の平澤さんと幸田さんに「J-REIT」と「人口と土地価格の関係」に関する二本立てのセミナーをご講義いただきました。

当協議会会員の方の知られざるノウハウ&専門知識からのお話しは、その現場のリアル感とともに新たな知の発見と出会いがあります。今回のまちづくりゼミナールでもそんな発見がありました。

平澤さんの「J-REIT」のお話しについては、昨今の市況や社会情勢の変化にともなう投資動向などのお話しを伺いました。最近は一リーマンショック以降、オフィス系の不安定感によりレジデンス系らしい…なるほど。



幸田さんの「人口と土地価格の関係」については、道内の事例をもとにお話しを聴きました。人口が増加すると土地価格は上昇する、逆に1万人以下になると急激に土地価格が下落する、というあたりまえのような話しですが、不動産鑑定士さんの視点からの分析を聞いてみると、論理的な裏付けがあり、なるほどと思うところがあります。一方で、論理原則どおりになってない自治体もあること、それはそれなりに要因がある訳ですが、その視点というものはなかなかおもしろいものがあります。こうした不動産の価格に関する分析から、改めて北海道の産業構造や地域特性などを見直す機会となりました。ゼミナール終了後は参加者による恒例の懇親会で、講義テーマをさらに掘り下げた有意義な意見交換を行いました。



【レポート】川瀬 浩氏

(琴似4・2地区第一種市街地再開発事業個人施行者事務局長)

会員情報交流会

平成24年度 第1回 情報交流会 | 2012年6月25日

「富良野に見るこれからのまちづくり」

話題提供 | 竹ノ内 久氏 | 株式会社コムズワーク 代表取締役



6月25日、株式会社コムズワークの竹ノ内久氏をお迎えし、今年度1回目の会員情報交流会を開催。17名の方にご参加頂きました。

道内各地で商業活性化、再開発、イベント・観光開発と幅広いコンサルティングでご活躍中の竹ノ内氏。交流会の本題に入る前から会場とのQ&Aに突入。冒頭から白熱した交流会がスタートしました。

最初に自身のプロフィールをご披露。ハードの現場から始まった職歴が観光開発や経営コンサル、更には中心商店街全体のコンサルティングへ発展し、次第にソフト化が進んできた状況が紹介されました。

今回の中心テーマは「富良野」のまちづくり。中心市街地の中核施設であった病院の移転を契機として、富良野の経営者たちが立ち上がり、フラノマルシェ建設から4条街区第一種市街地再開発事業の推進に至る経緯などを、マチの重要人物に関する裏事情も含めて話題提供頂きました。



途中、フラノマルシェを取り上げたテレビ番組のVTRも動画で再生。地元の重鎮等が語る生の声も聞くことができました。更に、動画で見ることができる「立体模型」のデモンストレーションも実施。フラノマルシェ等の空間をヴァーチャル体験させて頂きました。



「まちづくりで重要なのは、いかに大きな経済波及効果を生み出すことができるかだ」、「地元民の本気度が高ければ行政を動かすこともできる」。

現場経験に裏付けられたコンサルタントの信念に満ちた言葉が強く印象に残りました。

終盤には会場に参加の濱谷氏(道工大教授)から富良野の経営者と行政マンとの強い絆に関するエピソードも紹介され、富良野の底力の秘密の一端も垣間見ることができたように思います。

「まちづくりを商業として捉えるのではなく、産業として捉えることが重要」、「商人の発想ではなく、経営者の発想で考えなければいけない」

まちづくりの最前線の視点から、多くの重要なポイントが得られました。

【レポート】 林 雅之氏(パワーウェーブ)

会員情報交流会

平成24年度 第2回 情報交流会 | 2012年9月25日

「再開発事業から見た建築の設計」

話題提供 | 坂本 行宏氏 | 有限会社ワイズ デザイン・アンド・マネージメンツ 代表取締役



9月25日、有限会社ワイズデザイン・アンド・マネージメンツ代表取締役 坂本 行宏氏をお迎えし、第2回目の会員情報交流会を開催。19名の方にご参加頂きました。

坂本氏は、道内外を問わず、数多くの再開発事業における建築設計分野に携わった経験をお持ちになり、今回は、市街地再開発事業における『再開発事業から見た建築の設計』をテーマに交流会が始まりました。

冒頭は、坂本氏の二十数年に及ぶ経験から、初めて携わったN市の商店街における再開発事業について、国土交通省以外にも経済産業省などの補助金に関わる複雑な事業を経験され、一般的な民間事業における建築設計との違いを痛感したとのことでした。

その後は、民間事業における建築設計と再開発事業における建築設計の違いをキーワードにお話が続きました。



まず、再開発事業は数多くの専門家が関わることから、チームで取り組むこと、設計協議を行う相手の多さによる調整の難しさなど、関係者とのコミュニケーションの重要性について、自身の体験談をはさみながらお話くださいました。



続いて、再開発事業における設計業務の注意点や勘所や再開発に関わる補助など、実務者にとっては大変に有意義な事例などをご紹介いただきました。

会員情報交流会終了後、場所を懇親会場に移し、お酒を交えながら坂本氏を囲んで再開発事業と設計についての意見や情報の交換が行われました。

【レポート】事務局

会員情報交流会

平成24年度 第3回 情報交流会 | 2012年11月25日

「中心市街地活性化のまちづくり」

話題提供 | 大場 眞一氏 | 株式会社シグマ都市コンサルタント 代表取締役



11月29日、第3回会員情報交流会は、「中心市街地活性化のまちづくり」をテーマに株式会社シグマ都市コンサルタントの大場眞一氏にご講演をいただきました。参加者は北海学園大学の学生も含め14名でした。

大場氏は、道内の市町村において、数多くの中心市街地活性化に関わるまちづくりに携わっておられます。今回の会員情報交流会では、平成10年当時からのまちづくり三法等の制度変遷、改正中心市街地活性化法により認定された中心市街地活性化基本計画の事例や補助制度などについてわかりやすい説明をいただきました。

その後は、大場氏が取り組まれている岩見沢市の中心市街地活性化の方向性など事例を交えつつ交流会は行われました。



大場氏からは、今までの経験を踏まえつつ、中心市街地活性化はコンパクトだけでは活性化は困難であり、中心市街地に事業活動の場を充実させることや文化的な日常サービス機能を確保することの必要性、ソフト面では目標を共有し活動する事業推進体制の構築(マネジメント機能の構築と各事業体の連携)など、ハード及びソフトが両輪となって取り組むことの重要性など中心市街地活性化におけるまちづくりのヒントをいただきました。

会員情報交流会終了後は、場所を懇親会場に移動し、学生も交えながら中心市街地活性化について参加者で意見交換を行いました。



【レポート】武井 秀爾氏 (個人会員)

会員情報交流会

平成24年度 第4回 情報交流会 | 2013年3月25日

「マンション建替え初動期の取組みについて」

話題提供 | 武井 秀爾氏 | 個人正会員



平成25年3月25日、個人正会員の武井秀爾氏にご講演いただきました。

当協議会の研究会である

「マンション建替え支援研究会」では、マンション建替えを検討したい管理組合に対し、マンション建替えの流れや初動期の取組み内容についてわかりやすく説明する資料づくりを進めています。

今回は会員情報交流会という場を活用させていただき、武井氏が中心となって作成したスライドを説明していただきました。

建て替えを検討する大まかな目安は、旧耐震基準に該当するマンションであること、築後30年を超える時期にあることなどで、札幌市内には570棟ほど該当する物件があるものと思われます。

一方、昭和55年以前建築のマンションで建て替えを検討しているマンションは、札幌市分譲マンション管理実態報告書（平成23年）によると約10%だそうです。

建て替えが進まない理由として、区分所有者の関心の薄さや合意形成の困難さ、費用負担問題、容積率の不足などが挙げられます。

また、新しいマンションほど、居住性能が高まっていくのに対し、中古マンションは大規模修繕を行ったとしても、最新のマンションの居住性能には追いつきません。

マンション建て替え事業は検討段階と、その後の事業に大別されますが、「マンション建替え支援研究会」は、検討段階のうちいわゆる初動期の支援を想定しています。

情報交流会後半は、一般の方に来るだけ分かりやすい資料にバージョンアップするための意見交換が行われました。

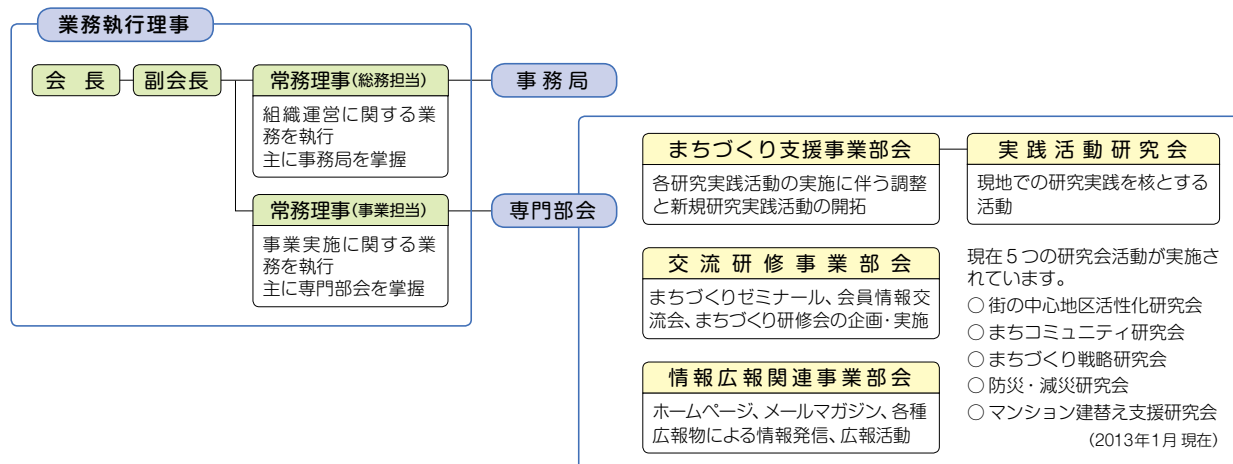
今はまだマンション建替え支援に実績があるとは言えない状況ですが、メンバーは再開発事業において豊富な実績があり、老朽していくマンションも増え続けることから、今後ますます社会的役割を果たすことが期待されるものと思われます。



【レポート】横山 幹人氏(株式会社北海道鑑定)

組織・役員（一般社団法人北海道まちづくり協議会：平成25年1月17日～3月31日）

■組織 執行理事が中心となって事業を推進し、会員の皆さまに専門部会や研究会活動への積極的な参画を募っている。



■事業内容

(1) まちづくり支援事業	◎各分野に関する調査研究、支援、提言	◎地域再生、コミュニティの形成・再生
		◎まちの産業再生・活性化、まちマネジメント
		◎多様な分野との連携をいかしたまちづくり
		◎再開発やマンション建替え事業
	◎自主支援事業（実践活動研究会）	
(2) 交流研修事業	◎受託支援事業	
	◎まちづくり支援相談	
	◎まちづくりゼミナール、会員情報交流会、まちづくり研修会等の実施	
(3) 情報広報関連事業	◎ホームページ、メールマガジン等による情報発信・広報	
(4) 上記に掲げる事業に附帯または関連する事業		
環境への取り組み	地域の環境保全に貢献することを目的に、年度予算の1%程度を活用し環境や自然保全等に取り組む公益的団体等に寄付、支援等を実施	

■役員

特別顧問	上田 陽三	前社団法人北海道まちづくり促進協会 会長
相談役	濱谷 雅弘	北海道工業大学 未来デザイン学部 教授
相談役	吉岡 宏高	札幌国際大学 観光学部 教授
会長	大石 章夫	有限会社大石R計画 代表取締役
副会長	森 哲子	株式会社クオリアット 代表取締役
常務理事(総務担当)	大場 眞一	株式会社シグマ都市コンサルタント 代表取締役
常務理事(事業担当)	高森 篤志	株式会社ソフトスケープ 代表取締役
常務理事(事業担当)	能戸 裕之	有限会社ジョブコム 代表取締役
常務理事(事業担当)	山口 重則	Y A M 建築計画 主宰
理事	岩崎 秀樹	株式会社ドーコン 取締役 執行役員 都市・地域事業本部長
理事	岩田 徳夫	岩田地崎建設株式会社 取締役常務執行役員
理事	佐藤 薫	一般財団法人日本不動産研究所 北海道支社 支社長
理事	西尾 吉博	伊藤組土建株式会社 執行役員 総務本部 副本部長
監事	深澤 照一	株式会社プランニングアーク 代表取締役

■事業部会長

まちづくり支援事業部会	中山 祐二	株式会社シン技術コンサル 都市施設部 次長
交流研修事業部会	坂本 行宏	有限会社ワイズデザイン アンド マネージメント 代表取締役
情報広報関連事業部会	岡本 浩一	北海学園大学 工学部 准教授

会員名簿

【法人正会員】

2013年3月31日現在

	会 員 名	指 定 代 表 者
1	株式会社アーレックス	代表取締役 林 秀樹
2	アルファコート株式会社	代表取締役 川村 祐二
3	伊藤組土建株式会社	執行役員 総務本部 副本部長 西尾 吉博
4	岩田地崎建設株式会社	取締役常務執行役員 岩田 徳夫
5	有限会社ウイステリア	代表取締役 藤井 基彰
6	有限会社大石R計画	代表取締役 大石 章夫
7	株式会社クオリアット	代表取締役 森 哲子
8	株式会社クレオ・ムイナス	代表取締役 今村 樹憲
9	株式会社コムズワーク	代表取締役 竹ノ内 久
10	株式会社シー・イー・サービス	代表取締役社長 小室 裕一
11	株式会社シグマ都市コンサルタント	代表取締役 大場 眞一
12	清水建設株式会社北海道支店	執行役員支店長 岩川 千行
13	有限会社ジョブコム	代表取締役 能戸 裕之
14	株式会社シン技術コンサル	代表取締役 佐藤 進
15	株式会社ズコーシャ	技術顧問 高橋 明男
16	有限会社ステージ	代表取締役 北川 好和
17	株式会社ソフトスケープ	代表取締役 高森 篤志
18	大成建設株式会社	札幌支店 開発部長 中村 清一
19	株式会社ドーコン	都市・地域事業本部総合計画部 副技師長 石塚 雅弘
20	戸田建設株式会社札幌支店	支店長 山田 裕之
21	株式会社日本設計	札幌支社 支社長 目黒 裕史
22	日本データサービス株式会社	企画部 課長 山下 昌彦
23	一般財団法人日本不動産研究所北海道支社	支社長 佐藤 薫
24	有限会社フォアキャスト	取締役社長 杉本 潔
25	株式会社プランニングアーク	代表取締役 深澤 照一
26	北海道印刷企画株式会社	代表取締役社長 中村 宣隆
27	北海道ガス株式会社	執行役員営業副本部長エネルギー営業部長 菅原 利浩
28	株式会社北海道鑑定	代表取締役 林 誠
29	街制作室株式会社	代表取締役 国分 裕正
30	丸彦渡辺建設株式会社	代表取締役社長 工藤 茂
31	有限会社ワイズデザイン アンド マネージメンツ	代表取締役 坂本 行宏

【個人正会員】

税理士等	1	司法書士・行政書士中嶋成美事務所 中嶋 成美			個人事業主	3	RCM 建築企画 主宰 島津 毅			
	2	中村和雄税理士事務所 中村 和雄				4	YAM 建築計画 主宰 山口 重則			
一 般	5	一戸 勝巳	10	加納 隆一	15	辻井 順	20	本間 寿幸	25	吉村 廣
	6	岡本 浩一	11	後藤 健夫	16	中村 清司	21	松井 泰友		
	7	香川 誠	12	佐藤 市郎	17	西間 敏幸	22	丸田 剛久		
	8	葛西 政一	13	住友 見千子	18	濱谷 雅弘	23	吉岡 宏高		
	9	片岡 道宣	14	武井 秀爾	19	藤山 三冬	24	吉田 潔		

【賛助会員】

	会 員 名	代 表 者
1	琴似4・2地区第一種市街地再開発事業個人施行者	代 表 宮坂 文範

【特別会員】

	会 員 名	代 表 者		会 員 名	代 表 者
1	岩見沢市	市長 松野 哲	5	二セコ町	町長 片山 健也
2	恵庭市	市長 原田 裕	6	函館市	市長 西尾 正範
3	音更町	町長 寺山 憲二	7	稚内市	市長 工藤 広
4	千歳市	市長 山口 幸太郎			



KITAMACHI

一般社団法人 北海道まちづくり協議会

2012年度活動報告書

〔発行〕

一般社団法人 北海道まちづくり協議会

札幌市中央区北3条西7丁目-1 緑苑ビル2階

TEL.011-232-0926 FAX.011-222-5697

Email : info-ad@kitamachi.org

●お問い合わせ等はEメールでお願いします

